琵琶湖対策特別委員会資料３
平成30年(2018年)12月18日(火)
琵琶湖環境部琵琶湖政策課

# 第17回世界湖沼会議参加報告および湖沼水環境保全に関する自治体連携について

世界湖沼会議は、昭和59年（1984年）に滋賀県の提唱により第１回会議が大津市で開催されて以来、おおむね２～３年毎に世界10ヵ国で開催されています。今回17年ぶりに国内開催された第17回世界湖沼会議について参加しましたので、下記のとおり報告します。

記

## １　開催概要

日　時：平成30年10月15日（月）～19日（金）
場　所：茨城県つくば市（つくば国際会議場等）
主　催：茨城県、（公財）国際湖沼環境委員会（ILEC）
テーマ：人と湖沼の共生―持続可能な生態系サービスを目指して―
内　容：研究者、行政関係者、NGO等一般市民が分科会や特別セッション、ポスターセッションで湖沼に関する取組発表を行った。
　研究機関、企業、自治体等がブース展示を行った。
参　加：世界50ヵ国からのべ5,500名以上が参加。
　開会式では、秋篠宮殿下がご臨席され、お言葉を述べられた。
　滋賀県からは、約100名が参加。

## ２　滋賀県の取組

１）県からの発表等

・開会式での知事来賓あいさつ

世界湖沼会議の成り立ちや歴史、琵琶湖での取組等について紹介し、「湖沼を有する地域や関係者が連携して、湖沼を世界の水議論の主要課題としていく」ことを呼びかけた。

・湖沼セッション（国内湖沼）、分科会での発表

湖沼セッションや、分科会において、琵琶湖の水環境保全の取組や、大量繁茂する水草対策等の生態系保全の取組、湖沼を活用したサイクルツーリズムの推進（ビワイチ）といった琵琶湖を「活かしながら守る」取組等を発表した。

・環境省主催ワークショップでの発表

「持続可能な湖沼管理の政策展開に向けたインドネシアと日本の連携に

ついて」をテーマとするワークショップにおいて、滋賀県がこれまで行ってきた湖沼環境保全の取組を発表し、インドネシア国内と日本の湖沼における管理の現状と課題について意見交換を行った。

・ILEC 主催コロキウムでの発表

第 17 回世界湖沼会議に参加した国内外の有識者によるコロキウム（意見交換会）に参加し、琵琶湖保全の取組や経験について発表するとともに、「湖沼を世界の水議論の主要課題に」向けて意見交換を行った。

2）県民等からの発表等

企業、NPO 等関係者約 10 名が、分科会、ポスターセッション等で、琵琶湖で行っている侵略的外来水生植物の対策や生物多様性保全の取組発表を行った。

3）展示会

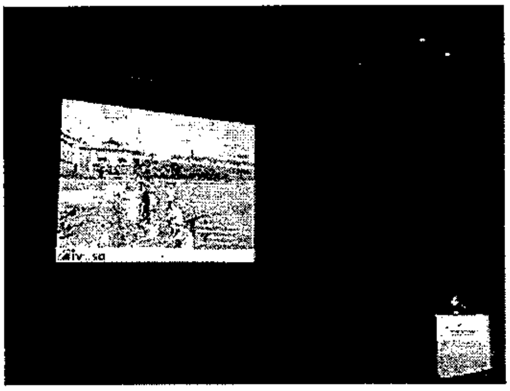
県ブースを出展し、滋賀県の環境保全の取組に併せて、観光振興の取組を PR するほか、市町や県内 NPO 等の取組も紹介した。また、しが水環境ビジネスフォーラムからも３社がブースを出展し、環境技術等の PR を行った。

4）若い世代の参加について

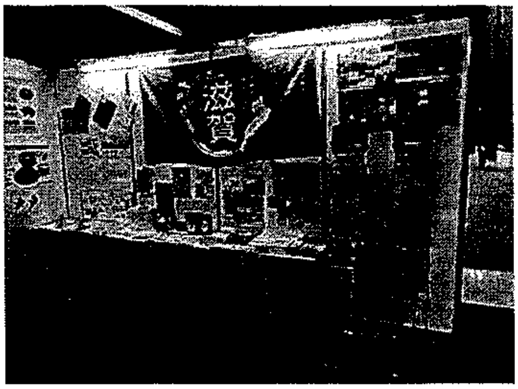
会議前日の 10 月 14 日（日）には、小・中・高校生による学生会議が開催された。滋賀県から４団体 32 名が参加し、琵琶湖での日頃の取組の発信や、参加者との交流を行った。

5）県議会による視察

滋賀県議会からは、議長のほか琵琶湖対策特別委員会委員が参加した。



②県内で活動する NPO 団体の発表




②滋賀県展示ブースの様子

## 3　湖沼水環境保全に関する自治体連携の設立

### 1）知事共同記者発表の実施

滋賀県の呼びかけにより、５県※の知事を発起人とする「湖沼水環境保全に関する自治体連携」(以下、「自治体連携」という。)を設立し、会議２日目に知事共同記者発表を行った。

※茨城県・長野県・滋賀県・鳥取県・島根県

③自治体連携設立に関する知事共同記者発表

今後は、自治体連携を通じて、湖沼の水質や生態系を含む水環境保全に関する取組をこれまで以上に強化する。

### 2）ワークショップの開催

自治体連携のスタートとして、滋賀県主催でワークショップを開催した。自治体連携の湖沼環境保全部局職員がそれぞれの湖沼が抱える課題や取組等の事例発表を行い、その後、自治体が今後どのように取組を進めるべきか等について意見交換を行った。

## 4　いばらき霞ヶ浦宣言 2018

会議の総括として、いばらき霞ヶ浦宣言 2018 が採択された。

宣言では、会場での議論等を踏まえ、生態系サービスを衡平に享受すること、生態系サービスを次世代に引き継ぐことを原則とし、湖沼が世界の水を巡る議論の場における主要課題として位置付けられるように努力していくこと等が述べられた。

## 5　その他の取組

### 1）インドネシア環境林業省関係者の受け入れ

世界湖沼会議に参加したインドネシア環境林業省の関係者等約 50 名が、会議参加後の 10 月 19 日（金）に、琵琶湖の視察に訪れ、職員との意見交換等を行った。

### 2）国際交流ミーティング

会議後の 10 月 21 日（日）に、世界湖沼会議に参加したメキシコおよびタイの有識者４名を滋賀県へ招聘し、県内 NPO 団体との交流会や、琵琶湖の視察を通じ、県民の琵琶湖保全の活動の活性化と世界への発信を行った。

④メキシコ・タイの有識者によるヨシ植栽地の視察

## 6　今後の展望

次回の第 18 回世界湖沼会議は、2020 年にメキシコで開催され、また、翌年３月には、セネガルで第９回世界水フォーラムが開催される。

2020 年は、ＳＤＧｓのターゲット６．６に定める「湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う。」の目標年でもあり、これらに向けて、琵琶湖の保全に一層取り組むとともに、国内外の湖沼を有する地域や国連などの国際機関と連携し、世界の湖沼保全に貢献していく。